

(別紙様式2-2)

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和4年度）

1 学校の概要

- (1) **学校名** 坂出市立松山小学校
(2) **所在地** 香川県坂出市高屋町1050番地1
(3) **学年別児童生徒数及び学級数, 教員数** (令和4年4月1日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
1学級 20名	1学級 22名	1学級 20名	1学級 19名	1学級 25名	1学級 30名	3学級 11名	147名	15名

2 研究主題等

- (1) **研究主題** 一人一人がかがやく授業づくり
～自己の可能性を信じ、よりよい生き方をともに高め合う児童をめざして～

(2) 研究主題設定の理由

本校の教育目標は「かしこく やさしく たくましく」であり、「みんなでつくろう！かがやきあふれる学校」をめざしている。かがやきあふれるとは、自他を認めることにより、自分らしさを発揮すること、友だちのよさを素直に受け入れることと考える。

本校の児童は、明るく素直で、課題に対してまじめに取り組むことができる。しかし、全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査の質問紙結果では、自己有用感や学習意欲が低い傾向にあり、自ら活動したり、他者の立場に立って考えたりすることを苦手とする児童が多いことが課題として表れた。

これらの課題や地域の実態を踏まえて、授業展開や支援活動の工夫を考え、特別の教科道徳（以下、道徳科）を中心とした全教育活動の充実を図っていく。また、地域学校協働活動推進員や学校運営協議会の協力を得て、学校と地域が一体となり、よりよく生きていこうとする児童の育成をめざす。

(3) 研究内容及び方法

- ① 全教育活動における道徳教育と道徳科の授業の充実
 - ・ 全教育活動における道徳教育：各教科，教科外との関連
 - * 学校行事と道徳の日を合わせた実践
 - * 児童会によるボランティア活動の推進
 - * 自己有用感を高める支持的風土づくり
 - ・ 生き方についての考えを深める道徳科の授業づくり
 - * 校内研修の実施：自分事として考え，自分らしい考えを表現し，道徳的価値に迫る授業づくり
 - * 地域教材を使った道徳科の単元化：「わたしたちのふるさとかがわ」の活用
 - * 道徳科の授業との関連を図った地域学習：「ふるさと香川」の活用
- ② 地域教材の再発見による総合的な学習の時間の充実
 - ・ 地域の人材を活用した生き方教育の充実：「坂出市地域学校協働活動」との連携
 - ・ 地域を活用した体験的な学習（ふるさと教育）の充実：坂出市「ふるさと理解推進事業」の活用
- ③ 地域に向けた発信の推進
 - ・ 道徳科の授業や各教科，総合的な学習の時間での学びの発信
 - ・ 学校だより，学年だより，学校ホームページでの発信

3 研究実践

(1) 全教育活動における道德教育と道德科の授業の充実

① 全教育活動における道德教育：各教科、教科外との関連

ア 学校行事と道德の日を合わせた実践

複数の道德的価値が含まれる学校行事においては、それぞれの行事を道德的実践の場と位置付け、指導を行った。行事後の振り返りとして道德の日を設定し、ワークシートに感想を記入して、保護者からのコメントをもらい、行事における学びを学校と家庭で共有した。道德の日のワークシートは、クラス掲示や校内掲示をすることで互いの学びを共有できるようにした。行事の際には、朝礼や朝の会、帰りの会で、道德的価値に迫るキーワードを使って教師が語るなどして、事前事後の価値付けを重視した。

<学校行事と合わせて道德の日を設定>

- ・ 1年生を迎える会
- ・ 水泳学習
- ・ スポーツフェスティバル
- ・ 松山っ子フェスティバル
- ・ 本校卒業生パティシエによる講演・実演
- ・ 校内持久走大会
- ・ 校内なわとび大会
- ・ 6年生を送る会



【キーワードによる目標づくり】

夢を追う姿から学ぶ

～パティシエの仕事をしている方のお話を聞いて～

私が心に残ったことは、「いいことがあるから、大変なことは思いつかない」という言葉です。わたしは、何でも「大変だなー」と思うけど、「楽しいことで、大変なことはつぶされて、思いつかない」と話すのを聞いて、「すごいなあー」と思いました。

次に、「よかったと思うこと」については、「おかしが上手につくれたこと」と答えると思っていたら、「みんなとお話できたこと」とか「みんなに会えたこと」と言ってくれて、うれしかったです。「まわりの人やお客さんを、しあわせにしたい」という言葉が、心にささりました。理由は、「みんながしあわせになるのが夢だから」だそうです。

この話を聞いて、わたしも何でもチャレンジしようと思いました。(第5学年児童)

【本校卒業生の講演後の道德の日の感想】

しんどくなったのに、がんばって走ったのはすごいよ。持久走のめあては、早く走るだけでなく、最後まであきらめないで走ることもふくまれているよ。お母さんも、負けないようにがんばるよ。(第3学年児童保護者)

【校内持久走大会後の保護者からのコメント】



【校内掲示 道德コーナー】

様々な行事においてタイミングを逃さず振り返りを行うことで、児童にとって自分の頑張りやよさを実感できる機会となった。また、苦手意識の強い行事においても、キーワードから自分の目標を定め、前向きに取り組むことができるようになり、その頑張りの過程を保護者からも称賛されることで、達成感を味わうことができた。

イ 児童会によるボランティア活動の推進

「ちょこっとボランティア」の実践

児童会運営委員会（以下、児童会）の呼びかけにより、昼休みを利用して、石拾いや落ち葉拾い、校内清掃などを行ってきた。活動回数を重ねるうちに、他の委員会からも一緒に企画を考えたいという申し出があり、児童の主体的な活動が広まった。高学年を中心に、児童が「学校のために何かできることはないか」と考えたことを、実践につなげた。

各活動には、50名近くの児童が参加し、楽しみながらボランティア活動に取り組む姿が見られた。主催した高学年児童もボランティア活動に参加した児童も、ともに充実感を味わうことができる取組となった。

このような活動を通して、児童が、みんなのために働く意義や目的を探求し、それらをもとに、集団の一員として自分の役割を果たそうとする態度の育成につなげた。



【落ち葉拾いボランティア】



【集めた落ち葉でハートを作ってほっこり】

ウ 自己有用感を高める支持的風土づくり

よさ見付け「キラキラカード」の実践

本校では、年間を通して、「子天狗活動」という異学年交流を行っている。その活動は、地区ごとに分かれた10名程度の小集団での活動で、学校行事においても、高学年を中心とした交流を活発に行っている。「キラキラカード」の実践は、互いに感謝したりよさに気付いたりしたことを、カードに書いて伝え合う活動で、これまでは各学級で実践していたが、今年度からは、学級の枠を超えて、全校生で取り組むことにした。そして、「キラキラカード」を、教室ではなく、校内掲示板に低・中・高学年ごとに掲示するよう工夫した。それにより、全校生が互いのよさを知ることができる考えた。コメントを読んだ児童は、自分がしてきたことが、学級の中だけでなく、異学年の友達の役に立っていたり認められていたりすることを知ることができるようになった。学級集団を超えて全校生が互いによさを知り、集団の一員としての自信や誇りが芽生え、よさ見付けの活動が広がっていく取組となった。



【階段掲示 低学年】



【階段掲示 中学年】



【階段掲示 高学年】

5年 ○○さんへ
長なわ大会で、○○さんが大きくなわを回してくれたから、とてもとびやすかったよ。ありがとう。

3年 □□より

△△さんへ
自主学習ノートに、すきまなく漢字を書いたり、色分けして分かりやすくまとめたりしていてすごいね。

■■より

【よさ見付け「キラキラカード」】

② 生き方についての考えを深める道徳科の授業づくり

香川大学教職大学院准教授の清水頭人先生を招いて、校内研修を実施した。その内容は、道徳科の授業づくりにおける基礎・基本についての講話とワークショップである。また、別の日には、研究授業において指導、助言をいただいた。

ア 校内研修の実施：自分事として考え、自分らしい考えを表現し、道徳的価値に迫る授業づくり

【道徳科の授業づくり基礎・基本】

道徳科の授業づくりの基礎・基本を学ぶ研修では、まず、小学校学習指導要領解説をもとに「道徳教育の目標」と「道徳科の目標」について確認した。道徳教育の要である道徳科の授業づくりでは、「①道徳的諸価値について理解する②自己を見つめる③物事を多面的・多角的に考える④自己の生き方についての考えを深める」の4つのポイントを学んだ。それらを大切にしながら授業を構成することが、道徳性の育成につながる授業づくりとなることをご教示いただいた。



【グループでの教材分析】

次に、道徳科の内容項目を理解した上で授業づくりができるようワークショップを行った。具体的には、内容項目「正直・誠実」に含まれる道徳的価値の内容が、低・中・高学年でどう発展していくのかを比べながら、それぞれの学年で予め用意した3つの教材の教材分析を行った。その教材の中の主人公の行為や行動が道徳的に変容する「中心場面」において、どのような「中心的な発問」をすると、児童の多様な感じ方や考え方が引き出されるかをグループごとに議論した。ワークショップの最後に、清水先生から、「児童の発言の根拠を問うことで、発言の奥にある思いや価値観が表出される。その『問い返し』を考えることは、児童が自己の生き方についての考えを深める道徳科の授業づくりにおいて大切なことである」と、授業改善に向けたご助言いただいた。

【ICTの活用「心メーター」】

ワークショップの2つ目として、授業におけるICTの活用について学んだ。

まず、捉えにくい心を、色や目盛りによって可視化して捉えやすくすることを体験した。次に、自他の意見を瞬時に可視化できるよさがあるということも実感した。そして、可視化された自他の思いや考えをもとに他者との対話を促し、多面的・多角的に考えることで、自己の生き方についての考えを深める支援について学んだ。



【講師によるICT活用の説明】

ワークショップで扱ったICTのツールは、「心のメーター」である。これは、揺れ動く心を色や数値で細かく表せるものである。児童は、タブレットのメーターを操作しながら、自分事として考え、心の揺れや葛藤を意識し、自分の考えを表現することができるツールとして有効である。

ご指導いただいたことを道徳科の授業改善の基本として共有し、日々の道徳科の授業において、互いにアイデアを出し合い、児童の実態を大切にしながら、納得と発見のある授業づくりを行った。ICT活用においては、ICT支援員のアドバイスを受けながら、ICT担当教員が率先してアイデアを出し、対話を引き出すためのICT活用を広めた。

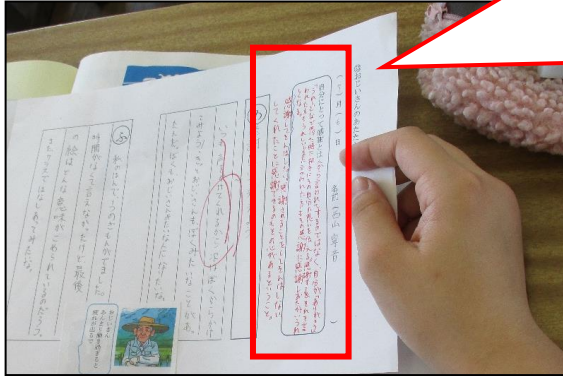
イ 地域教材を使った道徳科の単元化：「わたしたちのふるさとかがわ」の活用

実践A 地域と自分をつなぎ、理解を深める授業

<第5学年「おじいさんのあたたかな目」（学研）>

○導入

「感謝」についての個々の捉えを事前にワークシートに記入しておくことで、授業前と後の自分の変化に気が付けるようにした。



授業前の考え

自分にとって感謝とは…

- ・人から言われてやるのはなく、自分がするもの。
- ・自分も相手もうれしくなるもの。
- ・自分が少しでもお世話になったときこそ言いたい。

○板書

主人公の気持ちの変容を視覚的に表すための構造的な板書を工夫した。児童は板書を手がかりに状況を捉え、自分との関わりで考えられるようにした。



○発問

道徳的価値理解が深まるように、効果的な中心発問や補助発問を事前に吟味した。

- ・中心発問「どうしてぼくは、明日はぼくの方から声をかけてみようと思ったのかな。」
- ・補助発問「声をかけることでどんな気持ちになってほしい？」
「みんなだったら、どんな言葉をかける？」

○振り返り

自分が生まれてからこれまでの自分と地域の様子をイラストや写真で見ることで、その変容に気付き、改めて自分にとって「感謝とは」という課題に向き合えるようにした。また、地域の方から学ぶ生き方教育（総合的な学習の時間）につなげられるようにした。



実践B 「わたしたちのふるさとかがわ」（香川県小学校道徳教育研究会）を活用した授業

<第1学年「あぶらの出なくなった岩」（わたしたちのふるさとかがわ）>

○導入

本教材に入る前に、スポーツフェスティバルの写真を用いて、自分たちの素敵ポイントやもっと頑張りたいポイントなどを振り返り、本時の学習内容を自分との関わりで捉え、考えることができるよう工夫した。



○教材提示の工夫

「わたしたちのふるさとかがわ」の挿絵を活用した紙芝居を作成し、発達段階に合わせた教材提示の工夫を行った。絵で場面ごとの主人公の心情を視覚的に捉えられるようにし、児童の表情を見ながら教師が読み聞かせることで、主人公の思いを深く考えることができるようにした。



○交流

教師を相手に役割演技をすることで、よりよく生きる上で大切なことは分かっているが、なかなか実現することが難しいことなどを児童の言葉で表現させ、理解を深めることができるようにした。

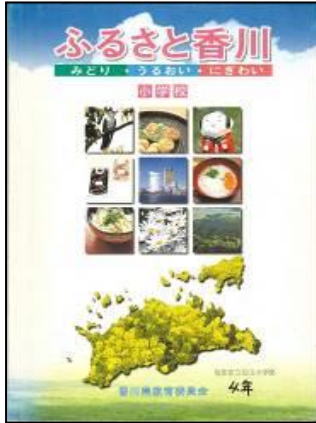


○振り返り

教室の本棚の様子やトイレのスリッパを並べる様子の写真を提示し、教材で考えたことと自分の生活を重ね合わせて振り返ることができるようにした。学習支援アプリを活用し、自分のよさ（赤色のカード）と頑張りたいこと（青色のカード）を選択して自分の思いを書き、一覧表示で全員の振り返りを共有した。これまでの自分のよさに気付くことも大切にした。



ウ 道徳科の授業との関連を図った地域学習：「ふるさと香川」（香川県教育委員会）の活用



＜「ふるさと香川」活用事例＞ ※記録に残し、来年度へ引き継ぐ

- ・ 郷土香川の発展に尽くした先人「野網和三郎」「西嶋八兵衛」などについて、「わたしたちのふるさとかがわ」を活用した道徳科の授業後、その人物についてさらに詳しく調べる学習に活用
- ・ 未来を担う一員として、先人の生き方を学ぶために活用
- ・ 旧金比羅大芝居「金丸座」など、社会科での調べ学習に活用
- ・ 学習発表会で、ふるさと香川のよさを伝えるためのクイズづくりに活用
- ・ 民謡「こんぴら船々」について知るための音楽科での活用

(2) 地域教材の再発見による総合的な学習の時間の充実

① 地域の人材を活用した生き方教育の充実：「坂出市地域学校協働活動」との連携

第5学年では、「坂出市地域学校協働活動」と連携し、地元で働く人たちに「お仕事インタビュー」を実施した。児童中心に企画し、インタビューが実現するよう交渉した。インタビューする内容を決める際には、仕事内容だけでなく、その人の生き方を知りたいという児童の願いが強かったので取り入れた。インタビューした人の生き方から、自分の生き方につなげ、自分の将来について考えるきっかけとなった。



【児童の企画によるお仕事インタビュー】

- ・ 今までインタビューをさせてもらった人たちのように、自分は「努力・謙虚に・正直に・思いやりをもつ」などについて深く考えずに過ごしていました。でも、どの人も最初から夢があってやってきたわけではないと思います。自分は、あやふやにしか考えていないけど「自分是可以る」と信じていきたいです。
- ・ これまで、インタビューをしてきた人たちは、大切にしている3つのルールがよく似ていました。また、この学習を通して、前向きな思考をしていきたいと思うようになりました。
- ・ できないと諦めてやらないのではなく、諦めない気持ちがあるから世の中は発展するし、未来が過ごしやすくなり、楽しい世の中が創れるということが分かりました。
- ・ つまずく経験を全部受け入れることは難しいかもしれませんが、これからの新しい出来事のためにも、自分と向き合って歩いていきたいと思っています。
- ・ 相手のことも、自分のことも大切にできる働き方を自分もしたいです。

S：「上手にお菓子を作れるようになるために、どうしましたか。」

GT：『一生懸命に追究することを続けました。』

S：「夢をかなえるために大事なことは、何だと思いますか。」

GT：『失敗を恐れずに挑戦することだと思っています。』

(S：児童，GT：ゲストティーチャー)



【「お仕事インタビュー」児童振り返り】

【児童が考えた質問内容とインタビューの様子】

② 地域を活用した体験的な学習（ふるさと教育）の充実：坂出市「ふるさと理解推進事業」の活用

各学年でテーマを設定し、地域について学ぶ「ふるさと教育」を実施した。「ふるさと教育」では、坂出市「ふるさと理解推進事業」を活用するなどして、実際に地域を訪問し、地域の人・もの・ことに触れ、体験的に学ぶことを大切にし、地域に発信することを目標に計画を立てた。

ア 第2学年 テーマ「松山・王越のすてきをみつけよう！」



【JA松山での体験学習】

道徳科で「わたしたちのふるさとかがわ」を使って学んだ「小原紅早生」農家の思いを、体験学習につなげてさらに深められるようにした。

イ 第4学年 テーマ「環境を守ろうプロジェクト～ホタル祭りを継承しよう～」



【ホタル祭り新聞】



【神谷神社での体験学習】

地元のお祭りを広めるために現地に行ったり、ホタル祭りに携わっている人にインタビューをしたりした。コロナ禍で数年間開かれていない地元のお祭りのよさを、途切れさせることなく自分たちが広めたいという取組につなげた。

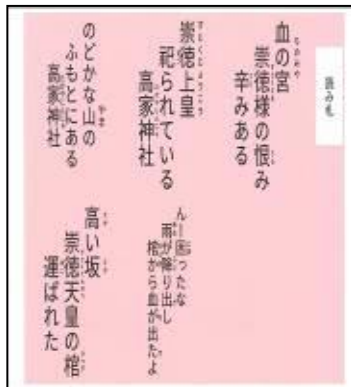
ウ 第6学年 テーマ「松山・王越の魅力再発見！歴史ミステリー」



【清立寺での体験学習】



【児童作成 歴史カルタ】



地元の歴史を学ぶために、学校周辺にある6つの寺社に行ってインタビューを行った。調べたり体験したりしたことを歴史カルタにまとめ、異学年にもふるさとの歴史を伝え、よさを広めた。

(3) 地域に向けた発信の推進

学校が子どもたちの学びを地域に発信することで、地域との関わりを創造し、学校と地域がつながることで、共に子どもたちの成長を願う関係づくりをめざした。

① 道徳科の授業や各教科、総合的な学習の時間での学びの発信

学習発表会において、各学年で学習したことを劇で表現し、保護者の方や地域の方に向けて発表した。劇の発表を通して、自分、学校、地域のよさを伝え、広げることができるようにした。



【第3学年 坂出三金時について発表】



【第1学年「あぶらのでなくなった岩」を発表】

② 学校だより、学年だより、学校ホームページでの発信

学校教育目標「かしこく やさしく たくましく ～みんなでつくろう！かがやきあふれる学校～」をめざして日々取り組んでいる実践を、学校だよりや学校ホームページ等で積極的に発信している。



【学校ホームページ】

11月25日(金)には、兵庫県からパティシエの方をお迎えしました。全校生に向けてのお話を聞いた後、5年生みんなでパティシエの方に「お仕事インタビューさせてください」とお願いに行きました。快く引き受けてくださり、インタビューが実現しました。児童は、貴重な機会に、熱心に質問をしていました。午後からは、ホールケーキや飴細工の実演を見ることができました。



4 研究の成果と課題 (○成果・●課題)

- 地域教材「わたしたちのふるさとかがわ」や「ふるさと香川」を活用することで、より身近にふるさとを感じ、道徳科の授業を要として、主体的にふるさとと関わりながら学ぼうとする児童の姿が見られた。
- 地域の方との出会いから生き方を学び、自分の生き方につなげようとする姿勢や意欲が高まってきた。学校生活アンケートにおいても、「困難なことにチャレンジする」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童が昨年度より5%増加した。
- 香川大学教職大学院准教授の清水頭人先生を招いての研修では、道徳科の内容項目「正直・誠実」に含まれる道徳的価値の分析を通して、低・中・高学年の系統を考慮した授業づくりについて学んだ。また、実際に教材を分析し、授業の中で中心価値に迫る発問や問い返しを考えることで、教師の授業力向上につながった。
- 今年度、協力いただいた地域人材による生き方教育や体験的な学習を「松山小スタンダード」として設定し、系統立てた「ふるさと教育（総合的な学習の時間）」を計画することができた。道徳科では、学校教育目標と照らし合わせ、今年度重点的に指導すべき内容項目を全学年で共有し、実践することができた。今後は、教科横断的な視点で配列や配当時間数を工夫し、年間指導計画の見直しを行う必要がある。
- 学校生活アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」と回答した児童が昨年度に比べて6%減少した。このことは学級での係活動や学校のために活動する委員会活動など様々な体験を通し、自分が他者の役に立っているという実感が十分に得られていないことが原因と考えられる。全教育活動を通した道徳教育と体験的な学習のさらなる充実を図りたい。